



平成初頭の早瀬子供歌舞伎。  
過去に県外から専門家を呼んでいた囃子  
や指導等は、昭和50年代から区民の手  
で行われるようになった。

映画「サクラサク」に登場した早瀬子供歌舞伎。  
5月5日(子どもの日)に行われるこの伝統行  
事は、多くの人の手で約150年もの間、脈々と  
受け継がれてきた。  
地域の大人と子どもをつなぐこの伝統を後世へ。  
今月号では、早瀬子供歌舞伎の歴史を振り返り  
ながら、伝統を継承する人たちに迫る。

継がれゆく伝統 早瀬子供歌舞伎

# 地域をつなぐ架け橋



歌舞伎の芝居を行っていた昭和年間の役者

約150年受け継がれる伝統

# 歴史

かつて海上交通の要衝として栄えた早瀬区。活発な外部との交流により、町には商店や料亭等が立ち並び、旦那衆といわれる商人層を生み出した。この地域に古くから伝わる伝統行事「早瀬子供歌舞伎」は、どのように始まり、受け継がれてきたのだろうか。

## コレラの流行

早瀬子供歌舞伎の始まりは、文化10年(1813)に、早瀬区でコレラ(※1)が流行したことがきっかけといわれています。村人たちは神様のたたりと信じ、約40年もの間、疫病を恐れる日々を過ごしていました。安政4年(1857)に瑞林寺の和光和尚の発案で、氏神様を祀っている日吉神社へ「子供歌舞伎」を奉

納したところ、コレラの流行は治まりました。

以降、安定した生活を送っていた村人は、コレラの流行が治まった一時奉納を休みました。すると、再びコレラが発生し、この奉納の重大さを痛感した村人たちは、再び奉納したといわれています。

※1コレラ菌による急性感染性腸炎



→現在の早瀬区の町並み。日本海に面し、過去には、廻船業や魚介類の仲買業が発展していた。

歌舞伎の芝居では、子どもたちが女形を演じることもあった。



→写真(左) 昭和40年代の寿式三番叟。寿式三番叟は、翁(写真中央)と三番叟(写真左右)の3人1組で行われる。昭和56年に衣装を購入するまで、このような貧衣装で行われていた。

## 演目の変化

当時、8つの町(宮町・蛭町・一姫町・港町・寺町・表町・大橋町・本町)があった早瀬区は、大正頃までは、芝居3幕と寿式三番叟(※2)が日吉神社で奉納された後、2日間にわたり8町を巡行し一幕ずつ行われていました。

芝居は、歌舞伎集24冊からなる「源平布引ノ滝四段目・小櫻責ノ場」等120から130余りの台本から選び抜かれ、その中から珍しい「時代もの・艶もの・世話もの」の3幕が上演されていました。歌舞伎の奉納は、午前8時から午後11時頃まで続き、日付が変わることもあったため、山車の上で寝てしまう子どももいたといわれています。昭和初期になると、芝居2幕と寿式三番叟となり、戦時中は寿式三番叟のみを演じ、飾り人形が披露されていました。

戦後は、8つの町が5つに統合され、昭和42年頃からは子どもの減少により寿式三番叟のみ演じられるようになり、昭和51年になると、男児の減少と多額の費用の負担により、一時中断を余儀なくされました。

※2 天下泰平と国土安穩を祈り舞う歌舞伎の演目



早瀬観光センター大広間の舞台上で衣装を身に付け指導を受ける子どもたち。

## 立ち上がる早瀬子供歌舞伎保存会

# 伝承

中断を余儀なくされた早瀬子供歌舞伎。

しかし、昭和56年に区民の強い要望により復活を果たす。

そして、この伝統を受け継ごうと平成9年に立ち上がった早瀬子供歌舞伎保存会。

この祭礼の主役である子どもたちを、影で支える人たち。

自分たちの手で守り、伝えていこうとする熱い思いが、この伝統を支えている。

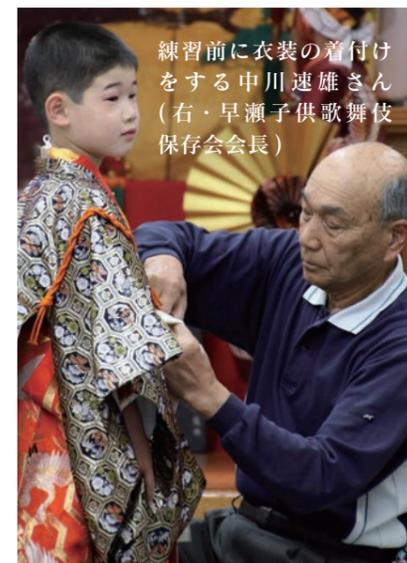


三味線は早瀬子供歌舞伎保存会がすべて演奏する。

稽古は3月下旬から始まり、平日の午後6時30分から8時まで毎日行われます。早瀬観光センター大広間の舞台には、山車の舞台と同じ大きさ(縦5m・横1.5m)の枠を設け、その中で練習が行われ、保存会の三味線や鼓、拍子木に合わせ子どもたちが踊ります。

稽古は、基本的な行儀作法から始まり、子どもたちは挨拶や態度についての指導も受けます。初日から台本を読み、台詞を暗記した後、振りの稽古を行います。

5月2日には、剣先烏帽子や袂の長い浴衣を身に付け、衣装の感覚を覚え、3日には練習の成果を区民に披露する足固めが行われ、本番さながらに舞います。



練習前に衣装の着付けをする中川速雄さん(右・早瀬子供歌舞伎保存会会長)

### 早瀬子供歌舞伎の復活

昭和56年に、子供歌舞伎を復活させようという区民の強い思いにより、区の祭礼を取り仕切る奉賛会が結成され、これまで貸衣装で賄っていた衣装を自分たちで購入し、5月7日から3日間行われていた日程を5月5日に変更して再開され、現在に至っています。

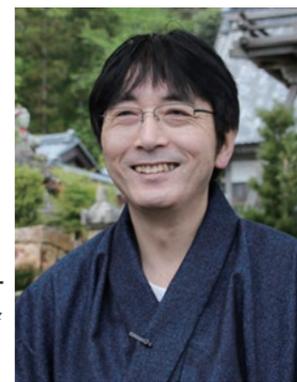
平成9年には、早瀬子供歌舞伎保存会が結成され、現在まで、指導から囃子までのすべてを会員の力で行っています。

### 稽古

子どもたちの踊りの指導は、早瀬子供歌舞伎保存会の栢野裕志さんと寺川効完さんが行っています。

子どもたちがいる限り指導者として携わりたい

早瀬子供歌舞伎保存会  
 栢野 裕志 さん(早瀬)



三味線は25年程やっており、7年前から指導も行っていきます。私自身も2回この舞台上で踊りました。小さい頃に経験したこの行事に、こうして携われることが嬉しいです。子どもたちがいる限り、ずっと続けたいと思っています。

子どもたちは、練習があっても遊びたいと文句も言わず、楽しんで練習してくれています。一生懸命練習する子どもたちから教えられることも多いです。

学校帰り等に会うと「おんちゃん」と声をかけてくれ、この伝統行事を通して生まれる地域のつながりを感じています。

私たちの姿を見て子どもたちが何かを感じてくれたら

早瀬子供歌舞伎保存会  
 寺川 効完 さん(早瀬)



13年程前に保存会に入り、7年前から指導に携わっています。小学校の時に大勢の人の前に立つことが出来るため、子どもたちには良い経験になっていると思います。指導は、踊り方や技術だけでなく、靴を揃える、大きな声で挨拶をする等の礼儀作法を伝えたいと思っています。

私たちの指導する姿を見て、子どもたちがこの伝統の大切さを感じてくれると嬉しいですね。

早瀬区に生まれたからには、この祭礼に一生携わっていきたくと思っています。孫の代まで続いてほしいですね。

## 早瀬子供歌舞伎の1日

午前6時  
 子どもたちの化粧及び着付けを開始。



午前8時  
 瑞林寺前の倉庫から山車が出発。  
 山車に乗った青年の「チョウサジャ」「ヤーンヨコジャ」の掛け声とともに、区民が山車を引く。



午前9時  
 日吉神社前で小・中学生、青年による太鼓が奉納される。



午前9時30分  
 大勢の観客が見守る中、日吉神社前で寿式三番叟が奉納される。



正午  
 山車を再び移動し、瑞林寺前で寿式三番叟が奉納される。



早瀬子供歌舞伎で舞い手を務めた4人の小学生。舞台上で凛々しく舞う役者も、普段はあどけない表情を見せる。

### Interview

あみだ ようすけ  
**網谷 洋介さん** (写真右から2番目)  
 教わったとおりにうまく踊ることができ、嬉しかったです。  
 指導者の方々は、踊り方だけでなく、挨拶や靴を揃えること等を教えてくださいました。  
 また来年もやりたいと思います。そして、大きくなっても太鼓等ですつと関わりたいと思います。

あまに あきひろ  
**濱谷 眺弘さん** (写真右から1番目)  
 台詞の練習で声でなくなる等、辛いこともありましたが、保存会の人々が優しく声をかけてくれて、楽しく練習ができました。指導者の方々には、僕たちのために頑張ってくれてありがとうございます。  
 これからも早瀬子供歌舞伎がずっと続いてほしいです。

きたり ようた  
**木谷 亮太さん** (写真右から4番目)  
 練習はいつも楽しかったです。最初から最後まで僕たちのために教えてくれた指導者の方々、ありがとうございました。  
 これから太鼓や三味線等も挑戦してみたいです。早瀬子供歌舞伎がずっと続いて、観光客がもっと増えてほしいです。

てらわ かんと  
**寺川 歆十さん** (写真右から3番目)  
 本番は、遠くから親戚も見に来てくれて嬉しかったです。  
 優しく教えてくれた指導者の方々には、とても感謝しています。これからも、たくさんの人にこの踊りを教えてもらいたいです。  
 早瀬子供歌舞伎は、永遠に続いてほしいと思います。



## 寿式三番叟を演じた4人の役者 継承者の

# 思い

かつて、寿式三番叟を演じるのは小学校4年生から5年生の男子に限られ、4年生は1人で翁を、5年生2人が三番叟を演じ、1組として構成されていた。

しかし、年々子どもの数は減少し、現在は2年生から5年生の子どもで演じられている。

今年、寿式三番叟を演じた4人の小学生。伝統を受け継ぐ4人の役者たちは、この経験を通して何を感じたのか。



早瀬子供歌舞伎保存会  
会長

なかがわ はやお  
中川 速雄 さん(早瀬)

以前は、県外から三味線の奏者や指導者の方に来てもらい継承者の育成に努めていましたが、現在は踊りの指導等を含め、保存会の若い人たちが伝統を守っていきこうと熱心に取り組んでくれており、安心しています。

今後は、保存会の皆さんが、祭だけでなく、お宮さんの世話等にも積極的に取り組んでもらえると嬉しいです。

子どもたちとは、練習で約1か月間共に過ごすため、やはりかわいく思うようになります。子どもたちが大人になっても、そういった関係は続いていますよ。

この祭で演じた子どもたちは、大きくなって太鼓を叩きに来てくれたり、山車を引いたり、保存会等で携わってくれています。大人から子どもまで、地域の住民をつなぐ大きなきっかけになっていますね。

子どもたちが年々少なくなっていますが、約150年続いているこの伝統行事を何とかこれからも続けていきたいと思っています。そしていつの日か、昔のように、歌舞伎の芝居ができればいいですね。



# 後世へ

「この伝統をこれからもずっと守っていききたい。みんな気持ちと同じだろう」と語る早瀬子供歌舞伎保存会の中川速雄会長。

この伝統行事を通して、大人から子どもまでが一つとなり、地域に芽生える深い絆きずな。

早瀬子供歌舞伎は、地域をつなぐ架け橋として、これからも後世へ受け継がれていくだろう。

## エネルギー基本計画の概要

去る4月11日に閣議決定されたエネルギー基本計画では、「我が国が、安定したエネルギー需給構造を確立するためには、各エネルギー源の強みが発揮され、弱みが補完されるよう、各エネルギー源の需給構造における位置付けを明確化し、政策的対応

の方向を示すことが重要」とし、「特に、電力供給においては、安定供給・低コスト・環境適合等をバランスよく実現できる供給構造を実現するため、各エネルギー源の電源としての特性を踏まえて活用することが重要」として、以下のように整理されました。

### ■主要なエネルギー源の位置付け

位置付け	
原子力	○安全性の確保を大前提に、エネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源 ○低炭素の準国産エネルギー源として、優れた安定供給性と効率性を有しており、運転コストが低廉で変動も少なく、運転時には温室効果ガスの排出もない
石炭	○安定供給性や経済性に優れた重要なベースロード電源の燃料として再評価 ○高効率石炭火力の有効利用等により環境負荷を低減しつつ活用していくエネルギー源 ○温室効果ガスの排出量が大きい ○地政学的リスクが化石燃料の中で最も低く、発電単価も化石燃料の中で最も安い
天然ガス	○ミドル電源の中心的役割を果たす ○今後、シェール革命を通じて、各分野における天然ガスシフトが進行する見通しから、その役割を拡大していく重要なエネルギー源 ○化石燃料の中で温室効果ガスの排出が最も少ない ○石油と比べて地政学的リスクが相対的に低い
石油	○ピーク電源及び調整電源として一定の機能を担う ○可搬性が高く、全国供給網も整い、備蓄も豊富なことから他の喪失電源を代替する等の役割を果たすことができ、今後とも活用していく重要なエネルギー源 ○調達に係る地政学的リスクは最も大きい
再生可能エネルギー	○エネルギー安全保障にも寄与できる有望かつ多様で重要な低炭素の国産エネルギー源 ○現時点では安定供給面、コスト面で様々な課題が存在(再生可能エネルギー：太陽光、風力、地熱、水力、木質バイオマス等)

### ■電源構成の考え方

◇あらゆる面(安定供給・コスト・環境負荷・安全性)で優れたエネルギー源はない。

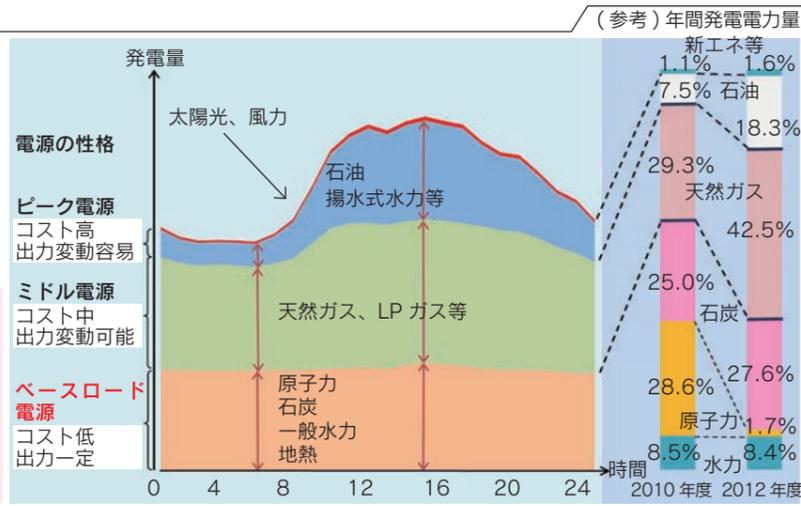
◇電源構成は、エネルギー源毎の特性を踏まえ、現実的かつバランスの取れた需給構造を構築する。

◇ベストミックスの目標を出来る限り早く決定する。

ベースロード電源：発電コストが低廉で、昼夜を問わず安定的に稼働できる電源

ミドル電源：発電コストがベースロード電源に次いで安く、電力需要の変動に応じた出力変動が可能な電源

ピーク電源：発電コストは高いが電力需要の変動に応じた出力変動が容易な電源



### ■原子力に関する課題を着実に進める取り組み

#### 高レベル放射性廃棄物の最終処分に向けた取り組みの抜本強化

- 国が前面に立って取り組みを進める。
- 最終処分場の立地選定は国が科学的に適性が高いと考えられる地域を示す等を通じ、立地への理解を求める。

#### 使用済燃料の貯蔵能力の拡大

- 発電所の敷地内外を問わず、新たな地点の可能性を幅広く検討しながら、中間貯蔵施設等の建設・活用を促進。

#### 放射性廃棄物の減容化・有害度低減のための技術開発

- 高速炉や加速器を用いた核種変換等、放射性廃棄物の処理・処分の安全性を高める技術等の開発を推進。

#### 再処理やプルサーマル等の推進、中長期的な対応の柔軟性

- 安全を前提に、プルサーマル推進・六ヶ所再処理工場竣工・MOX燃料加工工場建設・むつ中間貯蔵施設竣工等を進める。
- もんじゅは、廃棄物の減容・有害度の低減や核不拡散関連技術等の向上のための国際的な研究拠点と位置付け。また、研究成果の取りまとめを目指し、そのための実施体制の再整備等の課題について、国の責任で対応を進める。
- 技術の動向、エネルギー需給、国際情勢等の不確実性への対応の必要性から対応の柔軟性を持たせることが重要。

## 美浜発電所の状況



今回の報告では、4月18日から5月19日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

第25回定期検査中  
美浜1号機  
(平成22年11月24日)

第27回定期検査中  
美浜2号機  
(平成23年12月18日)

第25回定期検査中  
美浜3号機  
(平成23年5月14日)



↑エネルギー基本計画の説明を聞く出席者

国から「エネルギー基本計画」の内容を聴取

5月14日に、町役場において、去る4月11日に閣議決定した「エネルギー基本計画」(計画概要は次頁を参照)についての説明会を開催しました。

当日は、山口町長をはじめ、町議会議員、また、町の幹部職員も出席し、経済産業省資源エネルギー庁原子力発電立地対策・広報室の山田室長及び同庁総合政策課需給政策室の奥室室長、若狭地域担当官事務所の西山所長に説明を求めました。

説明会での質疑応答(一部)は次のとおりです。

問1 美浜1・2号機は、既に40年を経過し、3号機も、まもなく運転開始から40年を迎える。少子高齢化

により人口減少が続く中、原子力発電所が停止すれば、更に人口減少は加速する。半世紀に亘り、国のエネルギー政策に協力してきた町に対して、国はどう対応していくのか。

答1 美浜町の思いは重く受け止めている。計画でも記載しているが、立地地域対策の支援を検討している。

問2 なぜ、エネルギーミックスの比率が出せないのか。それが決まれば、リブレース等の計画を立てることができる。また、立地地域対策については、今すぐに対策を打たない地域がもたない。

答2 エネルギーミックスは大切だと考えている。今後、原子力の再稼働の状況や再生可能エネルギーの進捗等を見極めて、2〜3年かからず提示したい。また、原子力発電所の長期停止により、地域経済が停滞しているのは理解している。即効性のある話は難しいが、今後も、コミュニケーションをとりながらしっかりと対応したい。

問3 地産地消のエネルギー施策を進めるとともに、再生可能エネルギーを増やし、安定的な雇用に繋がっていただきたい。

答3 エネルギーの地産地消は、地域の特性に応じて、分散型の電源として進めていきたい。また、地元の



↑エネルギー環境教育の重要性について発言する山口町長

雇用や産業を考えるためにも、安定供給・低コスト・環境適合等を総合的に勘案したベストミックスの比率を早く提示したい。

問4 再生可能エネルギーの普及は大事だが、そのためには、それぞれのエネルギーの長所や短所を知ってもらう必要がある。計画においても、「エネルギー教育の推進」が盛り込まれているが、世界的課題である地球温暖化問題をはじめ、我が国のエネルギー供給の現状等が広く伝わるように、改めてエネルギー環境教育の推進を強く要望する。

答4 エネルギーは、全体として、今、何が起きているかを考える必要がある。ベストミックスを決めていける材料を提供していきたい。

町では、今後も町議会と連携しながら、国のエネルギー政策の動向を注視し、必要に応じて国に説明を求め、原子力発電の必要性を訴えていきます。